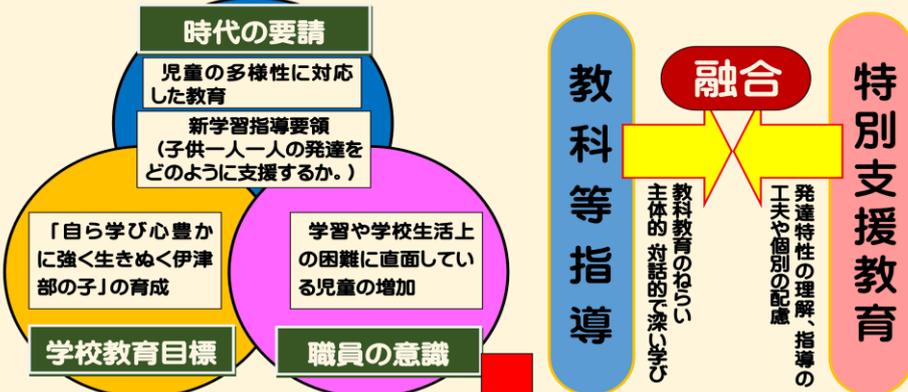


# 平成30年度・令和元年度 大島地区研究協力校 令和2年1月30日(木) 奄美市立伊津部小学校「特別支援教育」公開研究会

## 1 研究主題設定の理由

## 2 研究の仮説及び柱



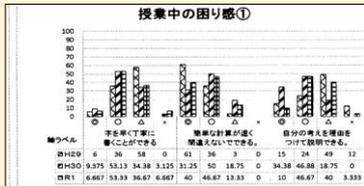
**特別な教育的ニーズのある児童に対して丁寧に実態を把握し、適切な支援方法を考えるとともに** 【研究の柱①】、**教室環境の整備や心の通い合う学級づくりなど、学級における基礎的な環境を整えたい** 【研究の柱②】、**全ての児童にとって分かりやすい授業を行えば** 【研究の柱③】、**児童は「わかった・できた」喜びを実感しながら自分の力を高めていくことができるのではないか。**

### 研究主題

**「わかる・できる」喜びを感じながら学び、自分の力を高める児童の育成**  
～ 一人一人の教育的ニーズに応じた教育活動の充実を通して ～

## 3 研究の実際

### 確かな根拠に基づいた児童の実態調査の在り方 (研究の柱①)



【「伊津部っ子シート」による考察】(研究の柱①)  
・ 全体的に学習意欲は高い。授業中の困り感については、高学年になり、ノートに書きや自分の考えなどを書く機会が多くなったせいか、昨年と比べて若干抵抗を感じている児童がいる。また、自信をもって自分の考えを説明できない児童が多く見られる。  
・ 自己肯定感はおおむね高いが、これまでと比べて、学級で安心して過ごすことができない児童が大きく増えている。また、自己有用感についても昨年と比べて若干下がっている。  
【担任から】  
・ どの学年にも意欲的に取り組む児童が多い。授業中の発表もほとんどの子ができるが、自信がもてず、挙手できない児童も数人いる。書く速さについては個人差が大きく、時間のかかる児童については、後で書かせることがある。また、学習内容が難しくなってきたせいか、何となくは分かるものの理由を添えて説明することに抵抗感が出ている。  
・ 入学以来クラス替えのない学年であり、男女の仲も親睦よくと思われ。しかし、思春期を迎え、若干人目を気にする傾向が見られ、安心して過ごすことができない児童が増えたと見られる。また、5年生になって委員会活動に取り組むようになり、6年生とともに意欲的に取り組む児童も多いが、委員会の仕事に責任ややりがいを見出せず、消極的な

### 安心・集中して学ぶことのできる学習環境の整備と温かい人間関係を育む学級づくり(研究の柱②)

「伊津部小スタンダード」の作成、学級目標の効果的活用、道徳教育の充実とクラスの結びつきや自己肯定感を高めるアイスブレイク、「しおかせ賞」

### すべての児童にとって分かりやすく学びやすい授業の工夫 (研究の柱③)

児童の学びを中心に据えた授業構成、「視覚化」「焦点化」「共有化」を踏まえながら個別に配慮した授業づくり

## 4 公開授業及び全体会・分科会の様子



### 公開研究会に参加された先生方より

- どの教室も整理されていて環境が整っていた。
- 学習環境の整備(伊津部小スタンダード)はとても参考になった。
- 授業での教材・教具の提示の仕方など、視覚的な支援の工夫が大変参考になった。
- 先生が常に笑顔でいることで安心して授業を受けることができていた。
- 児童の視点に立った授業づくりの大切さを改めて感じた。
- ワークシートが分かりやすく簡素化されていてよかった。
- 授業の流れや説明の仕方、ルールなどを分かりやすく伝えるための工夫がなされていたので参考になった。
- 授業者の声かけや授業のテンポがよく、児童も次の活動を楽しみにしていた。
- 特別な支援を要する児童に適切に配慮しながら授業を進めることができていた。
- 特別な支援を必要とする児童に配慮した手立てが他の児童にも生きていると思った。
- 支援を要する児童を囲むまわりの様子が温かく、お互い支え合ったり協力したりしている日常が思い浮かんだ。
- グループ活動や意見の交流の仕方がよく、理解の共有が図られていた。
- 「わかった」「できた」と児童が言えるようにゴールを常に意識させた授業でよかった。
- 「共有化」について、話し合い時のキーワードの焦点化、対話の際のルール作り等、更に絞っていけば活動が深まるのではないかなと思う。
- 「学習の流れ」の横に目安となる時刻を書くことよいのではと思った。
- 学習の振り返りでは、自分のがんばり、変容に気づかせる自己評価にもっと時間をかけてもよいと思う。そうすれば、自己肯定感も高められる。
- グループ発表もよいが、全体の中で一人一人が話し合ったり、意見を言ったりする場面もあった方がよいと思った。
- 支援を必要とする児童の学習面の評価の充実が必要と感じた。